

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	6971600272		
法人名	社会福祉法人 白寿会		
事業所名	グループホーム御所		
所在地	徳島県阿波市土成町宮川内字神田133番地1		
自己評価作成日	令和3年7月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和3年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は自然豊かな立地にあり、一年を通して四季を肌で感じる事が出来る。利用者の方は園庭や施設の周りを散歩されたり、季節の風を感じ、気分転換を図られている。職員間の取り組みとして、個別ケアの実践と、利用者、家族、職員が共に利用者を支える関係作りに力を入れている。又、医療面においても、主治医や訪問看護との連携で、心身の状況に応じた対応、異変時の早期対応に繋げている。現在は新型コロナウイルスの影響で、実施出来ない事が多いが、例年であれば近隣の児童施設、障がい者施設とも交流を持ち、秋には地域住民の要望もあり、地域のボランティアの方が御所園庭にて祭りを開催している。その際は利用者の方も参加され、地域住民の方との交流が図られている。少しでも多く楽しみを感じていただけるようレクリエーションや行事の機会を増やす工夫を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな山間部のふもとに位置している。近隣には、同一法人が運営する施設が併設し、行事や災害時の訓練など、協力しつつ取り組んでいる。利用者の急変時等には、協力医療機関と連携し、24時間対応可能な連携体制を築いている。定期的に、訪問看護や歯科、心療内科など、複数の医療機関からの訪問診療があり、利用者や家族等の安心につながっている。新型コロナウイルス感染症の流行下においては、オンラインによる面会を実施したり、毎月、写真入りの事業所だよりを送付したりして、利用者家族との交流や関係性の継続に努めている。また、年2回の避難訓練も、併設の施設や地域の消防団等と協力しつつ開催し、災害時に備えている。随時、管理者との個別面談のほか、年2回、代表者と職員が個別に話す機会もあるなど、風通しのよい環境を整備している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた独自の理念であり、常に認識出来るようホーム内に掲示を行い、理念を共有し実践に活かしている。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえ、全職員で考えた理念を掲げている。毎日、朝礼で理念を唱和したり、事業所内に掲示したりして、職員間での共有化を図っている。また、毎年、理念を振り返り、支援の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ流行前は、近隣施設との交流、地域での清掃活動に参加し地域との繋がりを築いていた。又、事業所にも地域の方のボランティア来園があり、共に利用者を支え合える体制が出来ていたが、コロナ流行により交流を自粛している。	事業所では、地域清掃への参加や近隣施設との交流など、日常的に地域と交流している。感染症（コロナ等）の流行下においては、近隣の散歩時やボランティアの来訪時等に挨拶を交わすなど、交流の継続に努めているが、管理者は、さらなる地域との交流を検討している。	今後は、ネット環境等を活用しつつ、より充実した地域との交流を図ることができるよう、職員間で検討し、取り組むことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ流行前は、中学生の職場体験や高校生、大学生の実習を受け入れ、認知症への理解を深めて頂いていた。認知症サポーター養成講座にも参加し、認知症への理解を深める支援を行っていたが、コロナ流行後は相互交流ができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は新型コロナウイルス感染症予防対策として書面での開催としているが、利用者の状況や実施行事報告、取り組みなどを報告し、抱えている問題にも参加者から助言を頂き、職員間に伝達、サービスの向上に繋げている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行にともない、書面会議を実施している。利用者家族の代表者や地域包括支援センター、近隣施設の代表者、ボランティア代表者、民生委員などに書面を送付し、意見等を得ている。出された意見等について職員間で協議し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の現状や待機者の状況などを、毎月市の介護保険課へ報告。毎月のホーム便りの送付や疑問に思う事があれば訪問したり電話連絡して助言を頂いている。	事業所では、月2回程度、市の担当窓口を訪問している。事業所の活動や利用状況等を報告し、助言等を得ている。また、地域包括支援センターから相談を受けて入所に至ったケースもあるなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則身体拘束は行わないとの意思を強く持ち、どうしても拘束の必要性が考えられる場合は、家族に説明し理解頂いた上で同意書に署名をして頂く事になっている。夜間は家庭と同じように、戸締りを行っている。	事業所では、3か月に1回、身体拘束廃止委員会を開き、事例の共有等を行っている。委員会と同時に、研修会も実施し拘束をしないケアについて、職員間での周知・徹底を図っている。研修は、毎回担当者を変えることで、より理解を深めるよう工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、日頃より利用者の尊厳を考え内的世界を理解する事で、虐待の無いケアを行っている。又、定期的に勉強会を行い、虐待について考え、ケアの見直しの機会を多く持っている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 A 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は活用されている方はおられないが、管理者、職員は必要性を十分理解している。活用を勧める必要は現段階ではなく、支援するまでには至っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には十分説明を行い、納得して頂いた上で同意を頂いている。大きく改定がある場合は家族会を開催し、個々の疑問、質問等には管理者が伺い対応させて頂いている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の要望、意見を伺い、定期的にアンケート用紙を送付。頂いた意見を職員間で共有し、運営に反映させている。又、外部に苦情相談の窓口がある事を重要事項説明書に明示し、又掲示している。	事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や要望等を聞き取っている。家族等については、写真入りのお便りやアンケートを郵送した際に電話等で意見を得るなどしている。出された意見は、職員会議で検討し、運営面に反映している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているスタッフ会議にて職員間で意見交換を行い運営の改善に努めている。管理者は現場に入りコミュニケーションを図り、意見を出しやすい職場作りに努めている。	管理者は、毎月の職員会議やリーダー会議、随時の個別面談など、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。年2回、法人の代表者と面談する機会もある。聞き取った意見等は、職員間で検討・共有し、一人ひとりの力量を活かしつつ、運営面に反映している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の置かれた状況を把握し、柔軟な対応を行ってくれる事で働きやすい職場環境に努めてきている。努力・功績に応じ賞与に反映している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員が年間に多くの研修会に参加する機会があり、スキルアップに繋げている。又現場での実践に繋がられるよう勉強会を行い、職員間で知識の共有を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの情報共有や他施設への職場見学、研修などの機会がありサービスの見直しや向上に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に本人・家族から生活歴を伺い、新しい生活への不安が軽減出来るような取り組みを行っている。又、本人の要望を傾聴し、気持ちを汲み取り、安心感の持てる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や家庭での状況を伺い、不安や心配事が軽減出来るようなアドバイスを行い、施設で生活するにあたり、安心感を持って頂けるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の必要としている支援を見極め、他職種との連携をとり希望に沿ったサービスを提供出来るよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の自立支援を支え共に助け合い、笑顔の増える関係作りを築いている。又役割を持って共同生活を楽しめる環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より利用者の状態をお伝えし、現状を理解して頂く事で、共に利用者支援する関係作りを努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ流行前は、本人や家族の希望に沿い外出援助を行ったり、併設施設や別フロアにいつでも行き来し、交流が継続出来るような支援を行っていたが、コロナ流行後は、感染予防の観点からフロア間の行き来も制限している。	事業所では、利用者が大切にしてきた関係性の継続に努めている。感染症の流行下においては、オンライン面会を実施したり、手紙のやり取りを支援したりして、馴染みの関係が途切れることのないよう工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で過ごす場所や時間を提供できるように支援している。利用者間での支え合いや心配りも随所で見られる。利用者間トラブルが起きた際は、柔軟な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約終了後も家族より状態を伺い、相談等に応じたり面会に伺うなど関係性を保つようしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを理解する為、関わりを多く持ったり、家族に協力頂く等真のニーズを引き出せるように努めている。又、職員間でも利用者の思いを共有している。	事業所では、担当制を導入し、利用者一人ひとりの表情や仕草などから希望や意向等の把握に努めている。意思の表出が困難な場合は、家族やケアマネジャー、主治医、看護師等から情報を得て、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人、家族、関係者の協力のもと情報収集を行っている。生活歴や馴染みのある暮らし方への理解を意識している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中から現状を把握し、残存機能の維持、生活のリズムや本人のペースを大事にしたケアを行い、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族からの意見や要望を踏まえ、本人の出来る事が今後も継続出来るよう計画を立て、ポジティブプランを取り入れたその人らしい介護計画を作成している。	事業所では、利用者・家族等の意向や主治医や関係スタッフ等の意見を踏まえた介護計画書を作成している。毎月のモニタリングや半年に1回の見直しにより、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、日々の様子など介護計画に沿った記録を行い、職員間で情報を共有しながらモニタリング、介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化や家族の要望に応じ、併設事業所の協力も得て、利用者の状況に応じたサービスの提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ流行前は、児童施設や障がい者施設との交流、地域のボランティアの来園もあり、地域資源を活用しながら、住み慣れた地域で楽しみを持って生活が送れるよう支援していたが、コロナ流行後は、地域資源の活用が殆どできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望に沿い、今までのかかりつけ医とも関係を築きながら、不安なく適切な医療を受けられるよう支援している。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門科を受診する際は、家族等の協力を得つつ、職員が付きそっている。協力医療機関とは、24時間対応可能な連携体制を構築している。歯科や内科等の往診もあり、適切な医療受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者の状態変化があれば、看護職や訪問看護への相談を行い早期発見に努め、医療機関への受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には早期退院を目指し、病院関係者・家族との情報交換を行っている。又、退院後は本人や家族が安心して施設での生活が送れるように、医療機関からの情報は職員に伝え、スムーズな対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を作成し、契約時にも説明を行い、同意を得ている。医療機関や訪問看護と連携し、終末期支援を行う事が出来る体制が整っている。又、本人・家族に終末期等の意向を確認し、定期的に意向に変更がないか確認を行っている。	事業所では、入所時の段階で、利用者や家族等に、重度化や終末期の指針について説明し、同意を得ている。本人の心身状況の変化に応じて、家族等の意向を踏まえつつ、関係機関と連携を図り、チームで支援する体制を築いている。また、看取り支援も実施するなど、本人本位の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや個々の既往ファイルを作成している。全職員が広域連合の協力を得、救命講習を受けており、又訪問看護師からも初期対応に対する指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回併設施設と合同で、日中・夜間想定避難訓練を利用者も参加し実施。地域消防団との協力体制も図られている。事業所内でも災害についての勉強会を行い、施設内に非常食の備蓄も行っている。	年2回、消防署や地域の消防団等の協力を得て、併設施設と合同で避難訓練を実施している。日中・夜間における地震や火災等を想定し、避難経路の確認や炊き出し訓練等を行っている。また、年1回、勉強会も開催し、災害に対する知識の共有化を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より丁寧な声掛けや対応に気をつけ、自己決定を尊重し、自尊心を傷つけないよう細心の注意を払っている。記録も保管し、個人情報の保護に努めている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの性格や習慣、意見などを尊重した支援に取り組んでいる。年1回、個人情報保護やプライバシーに関する研修会を開催し、職員間で知識の共有化を図りつつ、サービスの質の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いに沿い、気持ちを引き出せるようなコミュニケーションを図り、自己決定を支援している。生活の様子からでも思いを汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が自分のペースで過ごせるよう無理強いないで、利用者の立場に立っての支援を心掛けている。興味の持てる事があれば一緒に行うなど、日々の暮らしを楽しめるような支援も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の自己決定や、本人のおしゃれ感覚を尊重しアクセサリーや小物を身につけて頂く等、その人の望むおしゃれを楽しんで頂いている。支援が必要な人には整容のお手伝いを行ったり衣類を選択していただけるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や片付けなど、可能な限りで共に行っている。味付けを見て頂いたり、食事を楽しみにして頂けるような支援を行っている。又、利用者の意見や嗜好を栄養士に伝え献立に反映させている。	食事は、同一法人が運営する他サービス事業所の管理栄養士が献立したものを提供している。利用者の好みを取り入れ、食事が楽しみなものとなるよう取り組んでいる。旬の食材を使った副菜を作ったり、利用者とともにおやつを作ったりして、季節感や五感刺激につながるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の低下している方には、栄養バランスの良い代替品を提供したり、咀嚼・嚥下状態に合わせた食事の提供を行っている。嗜好確認を行い、摂取量が確保できるような支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行うように声掛けを行い、清潔保持の支援を行っている。不具合があれば月2回の歯科診療日に診て頂き、咀嚼力の改善に繋げている。		

自己	外部	項目	A		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでのスムーズな排泄につながるよう、声掛けや案内を行っている。又、改善がみられる方には紙パンツの使用を中止するなど、自立に向けた支援を行っている。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。支援する際は、さりげない声かけを行うなど、羞恥心に配慮している。夜間はポータブルトイレを活用するなど、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	咀嚼や嚥下状態の良くない方や水分摂取量が少ない方には、飲食物の工夫を行っている。個々の排便間隔に応じた対応を行い、不快感が軽減出来るよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望を尊重し、気持ちよく入浴が出来るように支援している。体調や気分によってシャワー浴や足浴を行うなど、一人ひとりの状態や意向に沿った入浴に努めている。	事業所では、週2回は入浴することができるよう支援している。利用者の希望や状況に応じて、入浴回数を増やしたり、同性介助を行ったりしている。季節にあわせて、ゆず湯やしょうぶ湯を行うなど、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファや畳の上での休息スペースを設け、思い思いに休息されている。就寝は本人のリズムに合わせて、良いタイミングで良眠に繋がれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服薬一覧ファイルを作成している。誤薬を防ぐ為服薬前は名前の確認、服薬後のダブルチェックを徹底している。内服薬変更の際には職員間で情報の共有を行い、症状の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人と関わりながら、家事を職員と共に行う事で生活に張り合いを持って頂いたり、趣味として編み物、風船パレー、散歩など一緒に楽しめるレクや個人に合わせたレクリエーションへの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調の良い日には、園内の散歩を楽しんだり、個別での希望にも応じて外に出かけ、気分転換をはかって頂いている。しかし、馴染みの場所への外出や、地域の方が集まる場所のイベントには感染症予防の観点から参加を自粛している。	事業所では、年間計画や月間計画を作成し、家族やボランティア等の協力を得て、日常的な外出支援に取り組んでいる。感染症の流行下においては、敷地内を散歩したり、通院時にドライブしたりして、できる限り外気を感じることができるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を多少所持されている方もおられ、お金を持つことで安心感を得ている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば通話の支援も行っている。家族の声を聞かれる事で安心感を得られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには利用者と共に製作した四季の飾りつけを行い、季節の移り変わりを感じて頂いている。歩行にも障がないようゆったりと生活しやすい空間づくりになっている。	共用空間は、日当たりがよく、広い空間となっている。壁面には、利用者と一緒に制作した作品や写真などを飾り、季節感を感じることができる。また、机にアクリル板を設置したり、定期的に換気したりして、感染症対策も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の上などで気の合う仲間同士でゆったりと過ごされたり、話題提供などで、一人でも独立しない空間作りを心掛けている。利用者同士の互いを思いやる声掛けも見受けられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、家族の写真、馴染みのものを持参して頂き、ご自宅と同じように安心感を持ち居心地良く落ち着いて生活して頂けるよう配慮している。	居室には、利用者の馴染みのある家具や写真、花などを持ち込んでもらうことで、居心地良く過ごすことができるよう支援している。安全面に配慮して、家具の配置等を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線の整備を行い、安全に生活出来るよう配慮している。居室が分からない場合は、ご家族の了承を得て、目印をさせて頂いている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた独自の理念であり、常に認識出来るようホーム内に掲示を行い、理念を共有し実践に活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ流行前は、近隣施設との交流、地域での清掃活動に参加し地域との繋がりを築いていた。又、事業所にも地域の方のボランティア来園があり、共に利用者を支え合える体制が出来ていたが、コロナ流行により交流を自粛している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ流行前は、中学生の職場体験や高校生、大学生の実習を受け入れ、認知症への理解を深めて頂いていた。認知症サポーター養成講座にも参加し、認知症への理解を深める支援を行っていたが、コロナ流行後は相互交流ができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は新型コロナウイルス感染症予防対策として書面での開催としているが、利用者の状況や実施行事報告、取り組みなどを報告し、抱えている問題にも参加者から助言を頂き、職員間に伝達、サービスの向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の現状や待機者の状況などを、毎月市の介護保険課へ報告。毎月のホーム便りの送付や疑問に思う事があれば訪問したり電話連絡して助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則身体拘束は行わないとの意思を強く持ち、どうしても拘束の必要性が考えられる場合は、家族に説明し理解頂いた上で同意書に署名をして頂く事になっている。夜間は家庭と同じように、戸締りを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、日頃より利用者の尊厳を考え内的世界を理解する事で、虐待の無いケアを行っている。又、定期的に勉強会を行い、虐待について考え、ケアの見直しの機会を多く持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B	B	B
			実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は活用されている方はおられないが、管理者、職員は必要性を十分理解している。活用を勧める必要は現段階ではなく、支援するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には十分説明を行い、納得して頂いた上で同意を頂いている。大きく改定がある場合は家族会を開催し、個々の疑問、質問等には管理者が伺い対応させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の要望、意見を伺い、定期的にアンケート用紙を送付。頂いた意見を職員間で共有し、運営に反映させている。又、外部に苦情相談の窓口がある事を重要事項説明書に明示し、又掲示している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているスタッフ会議にて職員間で意見交換を行い運営の改善に努めている。管理者は現場に入りコミュニケーションを図り、意見を出しやすい職場作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の置かれた状況を把握し、柔軟な対応を行ってくれる事で働きやすい職場環境に努めている。努力・功績に応じ賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員が年間に多くの研修会に参加する機会があり、スキルアップに繋げている。又現場での実践に繋げられるよう勉強会を行い、職員間で知識の共有を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの情報共有や他施設への職場見学、研修などの機会がありサービスの見直しや向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に本人・家族から生活歴を伺い、新しい生活への不安が軽減出来るような取り組みを行っている。又、本人の要望を傾聴し、気持ちを汲み取り、安心感の持てる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や家庭での状況を伺い、不安や心配事が軽減出来るようなアドバイスを行い、施設で生活するにあたり、安心感を持って頂けるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の必要としている支援を見極め、他職種との連携をとり希望に沿ったサービスを提供出来るよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の自立支援を支え共に助け合い、笑顔の増える関係作りを築いている。又役割を持って共同生活を楽しめる環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より利用者の状態をお伝えし、現状を理解して頂く事で、共に利用者支援する関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ流行前は、本人や家族の希望に沿い外出援助を行ったり、併設施設や別フロアにいつでも行き来し、交流が継続出来るような支援を行っていたが、コロナ流行後は、感染予防の観点からフロア間の行き来も制限している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で過ごす場所や時間を提供できるように支援している。利用者間での支え合いや心配りも随所で見られる。利用者間トラブルが起きた際は、柔軟な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B	B	B
			実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約終了後も家族より状態を伺い、相談等に応じたり面会に伺うなど関係性を保つようしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを理解する為、関わりを多く持ったり、家族に協力頂く等真のニーズを引き出せるように努めている。又、職員間でも利用者の思いを共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人、家族、関係者の協力のもと情報収集を行っている。生活歴や馴染みのある暮らし方への理解を意識している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中から現状を把握し、残存機能の維持、生活のリズムや本人のペースを大事にしたケアを行い、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族からの意見や要望を踏まえ、本人の出来る事が今後も継続出来るよう計画を立て、ポジティブプランを取り入れたその人らしい介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、日々の様子など介護計画に沿った記録を行い、職員間で情報を共有しながらモニタリング、介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化や家族の要望に応じ、併設事業所の協力も得て、利用者の状況に応じたサービスの提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ流行前は、児童施設や障がい者施設との交流、地域のボランティアの来園もあり、地域資源を活用しながら、住み慣れた地域で楽しみを持って生活が送れるよう支援していたが、コロナ流行後は、地域資源の活用が殆どできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望に沿い、今までのかかりつけ医とも関係を築きながら、不安なく適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者の状態変化があれば、看護職や訪問看護への相談を行い早期発見に努め、医療機関への受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には早期退院を目指し、病院関係者・家族との情報交換を行っている。又、退院後は本人や家族が安心して施設での生活が送れるように、医療機関からの情報は職員に伝え、スムーズな対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を作成し、契約時にも説明を行い、同意を得ている、医療機関や訪問看護と連携し、終末期支援を行う事が出来る体制が整っている。又、本人・家族に終末期等の意向を確認し、定期的に意向に変更がないか確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや個々の既往ファイルを作成している。全職員が広域連合の協力を得、救命講習を受けており、又訪問看護師からも初期対応に対する指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回併設施設と合同で、日中・夜間想定避難訓練を利用者も参加し実施。地域消防団との協力体制も図られている。事業所内でも災害についての勉強会を行い、施設内に非常食の備蓄もやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B	B	B
			実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より丁寧な声掛けや対応に気をつけ、自己決定を尊重し、自尊心を傷つけないよう細心の注意を払っている。記録も保管し、個人情報の保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いに沿い、気持ちを引き出せるようなコミュニケーションを図り、自己決定を支援している。生活の様子からでも思いを汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が自分のペースで過ごせるよう無理強いないで、利用者の立場に立っての支援を心掛けている。興味の持てる事があれば一緒に行うなど、日々の暮らしを楽しめるような支援も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の自己決定や、本人のおしゃれ感覚を尊重しアクセサリーや小物を身につけて頂く等、その人の望むおしゃれを楽しんで頂いている。支援が必要な人には整容のお手伝いを行ったり衣類を選択していただけるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や片付けなど、可能な限りで共に行っている。味付けを見て頂いたり、食事を楽しみにして頂けるような支援を行っている。又、利用者の意見や嗜好を栄養士に伝え献立に反映させている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の低下している方には、栄養バランスの良い代替品を提供したり、咀嚼・嚥下状態に合わせた食事の提供を行っている。嗜好確認を行い、摂取量が確保できるような支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行うように声掛けを行い、清潔保持の支援を行っている。不具合があれば月2回の歯科診療日に診て頂き、咀嚼力の改善に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B	B	B
			実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでのスムーズな排泄につながるよう、声掛けや案内を行っている。又、改善がみられる方には紙パンツの使用を中止するなど、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	咀嚼や嚥下状態の良くない方や水分摂取量が少ない方には、飲食物の工夫を行っている。個々の排便間隔に応じた対応を行い、不快感が軽減出来るよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望を尊重し、気持ちよく入浴が出来るように支援している。体調や気分によってシャワー浴や足浴を行うなど、一人ひとりの状態や意向に沿った入浴に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファーや畳の上での休息スペースを設け、思い思いに休息されている。就寝は本人のリズムに合わせ、良いタイミングで良眠に繋がれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服薬一覧ファイルを作成している。誤薬を防ぐ為服薬前は名前の確認、服薬後のダブルチェックを徹底している。内服薬変更の際には職員間で情報の共有を行い、症状の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人と関わりながら、家事を職員と共に行う事で生活に張り合いを持って頂いたり、趣味として編み物、風船バレー、散歩など一緒に楽しめるレクや個人に合わせたレクリエーションへの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調の良い日には、園内の散歩を楽しんだり、個別での希望にも応じて外に出かけ、気分転換をはかって頂いている。しかし、馴染みの場所への外出や、地域の方が集まる場所のイベントには感染症予防の観点から参加を自粛している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B 実践状況	B 実践状況	B 実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を多少所持されている方もおられ、お金を持つことで安心感を得ている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば通話の支援も行っている。家族の声を聞かれる事で安心感を得られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには利用者と共に製作した四季の飾りつけを行い、季節の移り変わりを感じて頂いている。歩行にも支障がないようゆったりと生活しやすい空間づくりになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや畳の上などで気の合う仲間同士でゆったりと過ごされたり、話題提供などで、一人でも独立しない空間作りを心掛けている。利用者同士の互いを思いやる声掛けも見受けられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、家族の写真、馴染のものを持参して頂き、ご自宅と同じように安心感を持ち居心地良く落ち着いて生活して頂けるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線の整備を行い、居室に絨毯を敷き詰め、安全に生活出来るよう配慮している。居室が分からない場合は、ご家族の了承を得て、目印をさせて頂いている。		